



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 日本海洋掘削株式会社  
代表者名 代表取締役社長 市川 祐一郎  
(コード番号：1606 東証第一部)  
問合せ先 広報・IR室長 谷内 正彦  
(TEL. 03-5847-5862)

### リース方式による海洋掘削リグ運用プロジェクト推進合意に関するお知らせ

当社は、東銀リース株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：佐藤潤）（以下「BOTL社」）と、プレミアムクラスの新ジャッキアップ型リグ2基（「HAKURYU-14」及び「HAKURYU-15」）をリース方式で運用することを目的とした共同プロジェクトを進めることで合意いたしました。

BOTL社は、「HAKURYU-14」につきましては、シンガポールの造船所 PPL Shipyard Pte Ltd と、また「HAKURYU-15」につきましては、シンガポールの造船所、Keppel FELS Limited（以下 Keppel FELS 社）とそれぞれリグの新規建造契約を締結しており、完成後 BOTL 社が組成する特別目的会社（以下「BOTL SPC 社」）が所有者となり、当社または当社関係会社が両リグをリース方式で運用する予定です。

本件は、昨年5月30日付けでお知らせいたしました「HAKURYU-12」に次ぐリース方式によるリグ運用プロジェクトであり、このプロジェクトを通じ、更に2基の新ジャッキアップ型リグが当社の運用リグフリートに加わることとなります。

なお、リグ名、「HAKURYU-12」、「HAKURYU-14」及び「HAKURYU-15」は仮称であり、リグ完成時に行われる命名式を経て正式なリグ名となる予定です。また数字の「13」は当社のリグ名には使用いたしません。

#### 1. リース方式での運用を予定するリグおよびその概要

	HAKURYU-14	HAKURYU-15
(1) リース予定対象物件	ジャッキアップ型リグ	ジャッキアップ型リグ
(2) リグデザイン	PPL Pacific Class 400	KFELS Super B Class
(3) 建造造船所	PPL Shipyard Pte Ltd、 シンガポール	Keppel FELS 社、 シンガポール
(4) 建造発注者	BOTL 社	BOTL 社
(5) 建造プロジェクトマネジメント	当社が BOTL 社より受託	当社が BOTL 社より受託
(6) 完成引渡予定年月	平成 28 年 10 月末	平成 28 年 12 月末
(7) リース開始予定日	リグ完成後に BOTL SPC 社に よる引取が完了した後	リグ完成後に BOTL SPC 社に よる引取が完了した後
(8) リース物件予定金額	約 2 億 6 千 7 百万米ドル	約 2 億 7 千 6 百万米ドル
(9) リグの主要仕様		
最大稼働水深	400 フィート (122m)	400 フィート (122m)
最大掘削深度	35,000 フィート (10,668m)	35,000 フィート (10,668m)
最大吊り荷重	2,000kips (907 トン)	2,000kips (907 トン)
マッドポンプ	2,200hp×3 基	2,200hp×3 基
BOP (暴噴防止装置) 最大使用圧力	15,000psi	15,000psi
最大居住区収容人員	150 名	150 名

## 2. 業績に与える影響

本件が当社の当期連結業績に与える影響は軽微であります。来期以降の連結業績に与える影響につきましては、判明次第開示いたします。

### 【本開示資料ご利用にあたっての留意点】

当資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、発表時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは異なる結果となる可能性がありますので、ご注意願います。

以上